

## 認知症と共に生きるという人と

初めて、私が丹野さんに出会ったのは、5年前(2014年)の講演でした。後で聞いたら、その講演は地元以外では初めての講演だったそうです。社会福祉士としての私の最初の印象は「こんなに当事者に頑張らしていいのだからか」「この人はどうしてこんなに淡々と自分に起こったことを話すのだろうか」と感じました。その後、講演以外の場で彼に出会うことがあったのですがどこから見ても「普通」にしか見えない彼は「認知症になって新しい出会いがあったし、できることも増えた」と言いました。その言葉で、認知症と共に生きるということについて深く考えました。



多くのパートナーと共に歩み続けます。

認知症により、「人の顔がわからなくなったり、忘れることがある」等日常生活の中で困ることもあります。しかし、それは認知症という丹野さんの一部でもあり彼



つどいの様子

## 「認知症の人と家族の会 兵庫県支部」のご紹介

にとつては当たり前の日常です。認知症になったことは決して不幸なことではありません。周囲の理解と合理的配慮、本人の「力」があれば、認知症と共によりよく生き続けることができるのです。そして、彼と関わる人が「認知症の人」「支援の対象者」ではなく、「普通」に接することで、彼は前を向いて笑顔で生きることができるようになります。

**Q.1** どんな仕事をしていますか？

「総務人事務グループでみなさんと同じ仕事をしています。」  
会社の理解と協力を得て、診断後も働き続けることができます。

**Q.2** 仕事を続けるために工夫していることは？

「記憶が悪いのですべてノートに書きながら仕事をしています。憶えていられなくてもすべて書くことで残るのです。」  
病気を受容し、できないことをできるように自身で工夫しています。

「病気をオープンにして聞くようにしています」  
隠すのではなく、オープンにすることで周囲の人は理解します。

公益財団法人 認知症の人と家族の会(家族の会)は全国47都道府県に支部があり、兵庫支部では約240名の会員の皆様とともに、相談や啓発活動などのさまざまな取り組みを行っています。

**つどい**

毎月第3木曜日、13時〜15時に神戸市勤労会館で開催しています。日々の生活や介護の中での様々なお話を語り合います。医療・介護の専門職も参加しています。どなたでもお気軽にご参加ください。

**電話相談**

認知症の人の介護について、相談員がお話を伺います。

078-360-8477  
へご相談ください。毎週月・金、10時〜16時に開催しています。

**啓発ウォーク**

県下各地で認知症についての「啓発ウォーク」を実施しています。

ることができるのです。認知症をオープンにするということとは私たちの想像以上に、本人、家族にとつてとても勇気のいることです。



仕事でも彼の笑顔で周囲が和みます。

**Q.3** 支援とか合理的配慮ってどんなことだと考えていますか？

「自分の意見をはっきり言える事、出来ない事は出来ないという自然に頼める事だと思っています。そしてお互いに助け合うことに抵抗がなくなる環境が必要。勝手に周りが決めつけてやってしまふのは合理的配慮ではない。」  
認知症の中核症状には合理的配慮が必要です。それは、できないことをやってあげるのではなく、相互理解による信頼関係を基盤に当たり前の人間関係の中にある助け合いです。

「症状があっても、困らないように(本人が)工夫したり、助けを求めたりするだけで普通に生きられる。そのことを家族や支援者が、理解していない。認知症の人を「困った人」として捉え、過剰な

オレンジ色のジャンパーにサンバイザー、のぼりをもって、地域の当事者・家族の会の皆様とともに認知症についての理解を呼び掛けています。

**支部だより**

本部が発行する機関紙「ぼくぼく」とともに、兵庫県支部だよりを発行しています。つどいの様子やイベントのお知らせ・報告、世話人によるコラムなど、読みどころ満載の支部だよりです。会員向けに毎月1度発行しています。他にも、昨年度から兵庫県委託事業として「認知症カフェ研修・連絡会」を開催しています。今年も但馬と神戸の2会場で12月に実施し、認知症カフェの交流の場や活性化するヒントを得る場になっています。

また、9月の世界アルツハイマーデーには記念講演会を開催し、毎年さまざまな専門家の先生から医療や介護についてのお話を伺ったり、

関わりや間違った手助けをするので、当事者は生きづらくなる。」  
認知症になったから「守る対象」ではないのです。共に生きる仲間として共に歩んでいくことが大切です。

**Q.4** 家族に伝えたいことは？

「これから進行していても私は親としてやれることはやりたい。いままで関係を続けていけたらいいかな。」  
社会福祉士は家族支援を付帯事項とはしません。家族も含め、本人の自立支援をすることが私たちの社会的役割です。本人と家族をしっかりとサポートすることが必要です。

**Q.5** 兵庫県のことは好きですか？

「きれいな街並みが好き。そして人も好き。」  
これまでに数回、兵庫県でも講演をしてきています。

兵庫県社会福祉士会では今年6月22日、丹野さんの講演会を開催します。



\*丹野さんの講演会には、会員のみならず、県民のみなさんでもご参加できます\*

姫路城をオレンジ色にライトアップする「ひめじおれんぢプロジェクト」では世話人もプロジェクト委員として啓発活動に参加しています。その他、大学等での講義で認知症の人と家族の介護体験をお話したり、介護等制度や条例策定への会議に参加し認知症の人と家族の声を届けたり、毎年年末には宿泊での「年忘れ会」を開催したりするなど、活発な活動を行っています。

家族が認知症になつたときに家族の中だけで抱え込んでしまうと、生活や介護のことが大きな不安となつてしまふもの。ご本人や家族の方、すでに介護を卒業された家族の方や専門職と交流して、みんなで考えて取り組むことで、家族の方の気持ちのリフレッシュやよりよい介護につながることでしよう。

「どうしたらいいかな、心配だな、不安だな、これからどうなるのか



文責：認知症の人と家族の会 兵庫県支部  
世話人 森保純子  
(兵庫県社会福祉士会 会員)